

JAC創立100周年記念国内登山(中央分水嶺踏査)の山行報告書

(1)~(8)は必ず記入してください。(9)~(11)は、気づいた事項があれば記入してください。

(1) 担当支部:	東九州支部	(2) 記載者氏名:	飯田 勝之	会員番号:	10912	事務局整理記入欄	東九州 - 11
分水嶺区分	小場の峠 ~ K061鹿倉 ~ 林道	(3) 山行日:	2005年	2月	26日	(4) 天候:	曇り時々小雪

(5) 参加者氏名および会員番号

サポート要員氏名および会員番号

西 孝子	8325			安部可人	会友		
飯田勝之	10912			清水リツエ	会友		
園田暉明	13135			長野珠子	会友		
中野 稔	13997			石川洋祐	会友		
計				4 名			
計				4 名			

(6) 山行記録・位置確認(出発点・ピーク・峠・到達点など、主要ポイントに関して)・所要時間・道の状況

コース概略:	分水嶺を横切る国道387号線の小場の峠から鹿倉峠までの間の稜線踏査である。この区間は全く道らしきものはなく、かつこの地域特有の里山のヤブに覆われているところである。												
アプローチ:	国道387号線の小場の峠から直接稜線にとりつく。下山地点は鹿倉トンネルの南側出口で、ここに車2台を置き、別の2台小場の峠に向かう。												
地点コード	地点名	2.5万分の1 地形図名	経度E			緯度N			高度 m	到着 時刻	出発 時刻	道の 状況	(8)~(11)の特記 事項等との関係
			度	分	秒	度	分	秒					
歩行開始点	国道387号線小場の峠	深耶馬溪	131	11	53.2	33	19	46.9	547		7:23		
分水嶺到達点	国道387号線小場の峠	深耶馬溪	131	11	53.2	33	19	46.9	547		7:23	B-3	
	県道の峠	深耶馬溪	131	11	44.0	33	19	54.8	511	8:15		B-3	
	560mピーク	深耶馬溪	131	11	43.1	33	20	7.9	560	9:29		B-3	
	550mピーク	深耶馬溪	131	11	18.0	33	20	5.4	557	11:00	11:45	B-3	
	554mの北	深耶馬溪	131	10	59.6	33	20	9.4	557	12:19		B-1	
	540mピーク	深耶馬溪	131	10	43.4	33	20	9.9	553	13:36		B-1	
K061	鹿倉トンネル上	深耶馬溪	131	10	21.3	33	20	21.7	489	14:45		B-2	
分水嶺離別点	林道	深耶馬溪	131	10	17.1	33	20	25.9	514	14:59		B-3	
歩行終了点	県道	深耶馬溪										A-1	
総歩行時間(休憩時間を除く):												7時間10分	

(7) 三角点の位置と保存状況

上記(6)の地点コードを 記入してください	点名	等級	方位	保存 状況	特記事項
					区間中には三角点はなし

(8) 人工施設の現況および地形図との相違点

とりつき地点は分水嶺上を車道幅員9m、歩道幅員3mの国道387号線が通過している。

(9) 水および植生に関連した特記事項

分水嶺の稜線は、当日の区間は一部稜線南側が牧野になっている以外は、ほとんど全て、ヒシャカキ、リョウブ、ツバキ、アセビ等の低木のブッシュである。
一部造林地は台風の影響による風倒木が随所にあり、歩行に難渋するところが多い。

(10) その他の特記事項


(11) 写真の添付:(有りの場合には、写真説明を記入してください)

写真説明:
(1) 国道387号線の小場の峠。向こう側が分水嶺とりつき。
(2) 分水嶺稜線より黒岳

山行報告書(続き)

表面(1ページ目)に書ききれなかった事項を記入してください。

国道387号線の小場の峠付近は明け方降ったのか、雪が薄っすらと路面を白くして、凍りついていた。しかしさほどは寒くない。7時23分に出発。峠から稜線へのとりつきは、いきなりヤブこぎの急登(写真(1))、林床は2、3cmほどの雪である。5kmほどの行程ながら、ヤブこぎとなれば終点まで行けるかどうか分からない。濃いヤブと、向こうの稜線は霧に隠れ見え、ルートファインディングが難しい。

小場の北側の二つめのピークから左に下りすぎて、分水嶺からはずれたのに気づき引き返す。岩の露出した急斜面のやせ尾根を下るとヒノキの林となり、さらに下ると片草から深耶馬溪に通じる県道の内松の峠のカーブに下り着いた。8時16分で、途中迷って20分のロスタイム。

峠から北にまっすぐに稜線に取りつき、クヌギの林を軽く登る。569mピークを8時39分に通過。ここでまた少し西のピークまで進んで間違いに気づき引き返す。約10分のロスタイム。

地図上の556mピークの少し西側を通過し、国道387号線の鉄橋を右手に見ながら平行に進むと、やがて大きく北へ曲がり、大きくいったん下りながらさらに西へとカーブしていく。

分水嶺をそれないようにコの字形に遠回りしていくからひどく時間を食う。遠くに見える高い一本の赤松を目印に藪をかき分けていくと、やがて広い稜線のピーク、560mに9時29分に着く。霧が晴れてきて、南側に稜線が重なって見えているが、向こうの稜線が最初に迷ったところで、それほど遠くないのにここまで1時間半近くかかったことになる。

ここで休憩の後、再び西へ向かう。少し展望の開けたところを通ると、前方下方に田んぼと一軒家が見える。左手後方には黒岳も見えてくる(写真(2))。

地図上に、内松から錦雲峽へ通じる点線上(実際には道はない)のピーク(556.8m(森林基本図))で昼食をとる。

時刻は11時ちょうど。再び陽がさしてきて、雪もやんで、空も大分明るくなった。11時45分再出発。再出発すると、すぐに突然ブッシュが切れて目の前の展望が大きく開ける。稜線(分水嶺)の南側が、クヌギの点在する放牧地となって、ずっと続いている。南に牟田の台が堂々と見える。

稜線に残る古い有刺鉄線に沿い、牛の道を楽々と進む。初めてペースがあがる。緩いアップダウンがいくつも続く。地図上の554mは通らずにその北、5つめのコブに着く。12時4分。ここが最後のエスケープ可能地点だ。すぐ下のコルから小さな道が南に向かって下りている。これを行けば約1kmで県道に出て、さらに1.5km行けば片草に出れるはずだ。しかし牧野の稜線歩きでペースも上がり、時刻も早いので、同じアルパイトなら目的地まで行こうと全員決断。

いくつものコブを越す。快調にとばしすぎてつい油断。行く手をふさぐブッシュに踏み込むが前に稜線はない。下は崖。地図を確かめると、手前のコブで北西の稜線へとブッシュを分けるべきところを、放牧地に沿って南西に進んでしまったのだ。

引き返して軌道修正。ヤブこぎの再開だ。樹林の中のうす暗い支尾根に入り、再び読図とGPSのフル操業。北西から西に、さらに北西へ、北へ、西へ、北西へと、小さなコブを通過ごとに向きを変えて、スギの植林地や低木のブッシュを分けて進む。チョコ山が左に見えてくるともう終わりは近い。スギの風倒木の斜面を下ると、スギ林の中の薄暗い広い鞍部についた。

2時45分。ここは鹿倉トンネルの真上だ。県営林の境界を示す標柱がある。

目の前の露岩の急斜面は今日の最後の登りで、それを通過して10分で林道に出た。ここで分水嶺と分かれて県道へと向かう。林道を下り、3時10分、鹿倉トンネルの南に到着。これで本日の予定全部終。



(1) 国道387号線の小場の峠。向こう側が分水嶺とりつき。



(2) 分水嶺稜線より黒岳